

■ 新製品を狙え！ 特別編



三次元立体画像の再生方式 「遠山式立体表示法」



「遠山式立体表示法」はナムコ・遠山茂樹が開発した、三次元立体画像をより自然に再生する技術です。人が立体物を感じ取る時は、焦点距離や視野角などの“ずれ”を脳内で立体的に合成処理し、認識しています。「遠山式立体表示法」は、そうした“ずれ”の関係における誤差や矛盾を抑える技術で、より自然な立体表示を可能にしました。なお、この技術はまるで机の上に物が置いてあるような立体画像や、人物のフィギュアのような立体画像など、画像作成時の設定次第でいろいろな見方に対応することができるのです。



さあ、アナタも「遠山式立体表示法」を体験してみよう！

- 1:本誌から赤青メガネを丁寧に取り外す。刃物を使う場合はケガに注意しましょう。
- 2:視線との角度が約45度になるよう本誌を水平にする。机などの平らな所に置くと楽です。
- 3:右目が青、左目が赤になるようにメガネを持って隣りのページ (P21) を見る。
- 4:あとは見てみてのお楽しみ！

※「遠山式立体表示法」は、現在特許出願中です。

⚠ 注意 (ちゅうい)

- 気分が悪くなる恐れがありますので長時間みないでください。
- 付属のメガネで太陽を見ないでください。
- 付属のメガネは遠山式立体表示を見る以外の目的に使わないでください

プラボ英雄烈伝

70

感ぜざれば鈍す。感ずれば冴える。
印刷会社勤務 小沢俊彦



作 いたりたまご コゲ照